

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会（第26期・第6回）
議事要旨

1 日 時 令和7年2月26日(水) 17:00～18:10

2 方 法 オンライン会議 (Zoom)

3 出 席

委員：矢野桂司、小口高、倉本圭、三枝信子、佐竹健治、中村卓司、西弘嗣、堀利栄、
大谷栄治、掛川武、齋藤文紀、塩川和夫、鈴木康弘、張勁、土屋旬、榎本浩之

欠席：沖大幹、藪田ひかる、伊藤香織、春日文子、藤本正樹、村山泰啓

陪席：平澤享

4 議 題

(1) 前回議事要旨の確認

(2) 学術フォーラムの提案について

(3) 公開シンポジウムの提案について

(4) その他

5 配布資料

資料1 地球惑星科学国際連携分科会（第26期・第5回）議事要旨

資料2 学術フォーラム企画案募集について（回答）

資料3 公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」―日豪共同研究の新展開―の開催について

参考資料1 日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集（令和7年7～9月開催予定分）について（依頼）

6 議事内容

(1) 前回議事要旨の確認

委員長より、前回議事要旨の確認があった。

(2) 学術フォーラムの提案について

中村委員長から、資料2に基づき日本学術会議主催学術フォーラムの開催趣旨や開催形式の説明があった。企画案は地球惑星科学委員会の佐竹健治委員長名で提出することとした。佐竹委員からは、各セッションについてもジェンダーバランスを配慮すべきではという意見があった。共催については、地球惑星科学委員会傘下の分科会については連名にするには及ばないとした。セッションについては、テーマ別に構成するとよいという意見が多かった（データ科学、国際問題と科学、長期基礎科学、気候変動など）。北極研究に関しては複数のテーマをまたぐ話題を提供できるとの意見もあった。長期基礎科学については、持続可能性科学などの別の表現にしたほうがよいとの発言もあった。教育をテーマにしたセッションの提案もあった。主要なテーマに収束するようにセッションをまとめていく方向性も重要という意見もあった。各セッションのまとめとして「出口（提案）」を統一した

方がよいとの意見もあった。どのテーマも同列に扱うと薄められるので、テーマを絞る方がよいのではという意見もあった。

以上のような意見を参考に、2月28日までに日本学術会議事務局に企画案として資料2を一部修正して提出することが承認された。提出書類の修正については委員長に一任とした。

(3) 公開シンポジウムの提案について

オブザーバ参加の平澤氏から、資料3に基づき公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」(7月28日開催予定)に関して説明があった。シンポジウムは第一部(公開部分)と第二部(関係者による議論)から成る。中村委員長から補足説明があり、本分科会として開催を承認した。

以上